

しろくま通信



前々回より「お盆」について書いています。

前回、書きました幽霊飴では物足りない方には「文の助茶屋」という甘味の店があります。豊臣秀吉の死後、奥方だった北政所（きたのまんどころ）が菩提を弔うために高台寺を建立し、高台院湖月尼となりました。その尼寺の境内に、人情話の落語家曾呂利新左衛門の門弟、二代目桂文之助が長年愛用した扇子を納めた扇子塚を立て、引退後、風流三昧に甘酒茶屋をはじめ「文の助茶屋」と呼ばれるようになりました。香ばしい香りとお口の中ですりやけるようなわらび餅が人気で、後に清水寺に近い三年坂に移転しました。きなこをまぶしたわらび餅を抹茶でいただくと、ツルリとした食感ときなこの香ばしさがミックスされ、東山観光で疲れた体を休めてくれます。

京都らしい甘味が楽しめます。ツルリとしたわらび餅が人気です。



前回のしろくま通信はホームページで観覧できます

<http://babayakkyoku.com/>

ホームページは「しろくま薬局」ですぐに検索！！